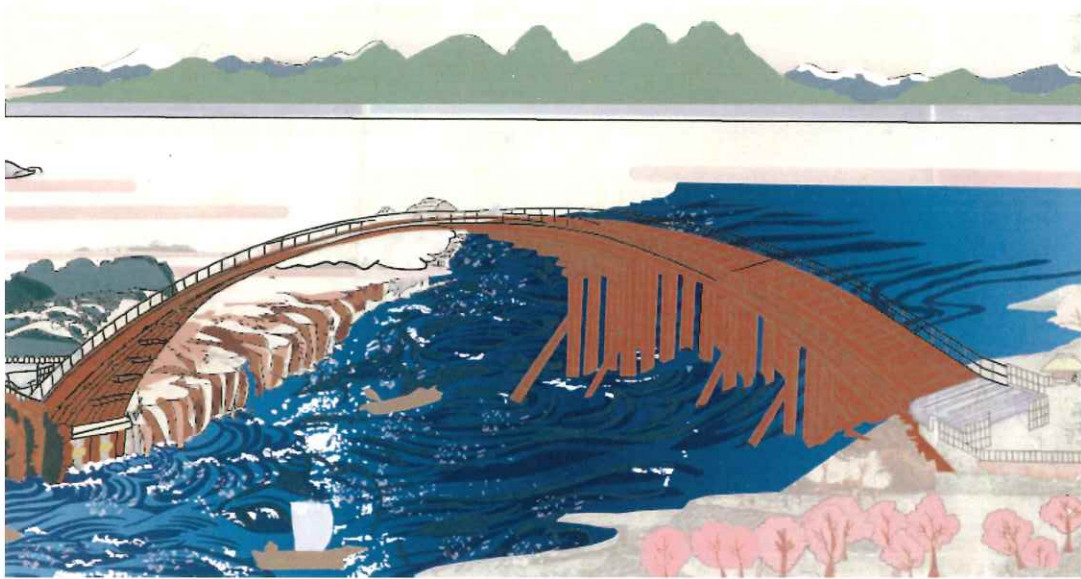


東国文化は文明ではなかったのか？

利根川との繋がりについて考える



(私が習うデジタルアートで作成した安政5年(1858年)の万代橋の絵)

桂萱中学校2年6組

安塚 万佑子

私は、小学5年生の時から東国文化自由研究を始めました。

今年の研究課題は、地元前橋を流れる利根川は、時には暴れ、流れを変え、水がもたらす豊かな恵みを与え続けてきましたが、そこで育まれた東国の人々の生活は文明ではなかったのか？やはり文化なのか？古代の人々が残してくれた遺物などから、利根川との繋がりを調べてみました。

## 1. 世界4大文明との比較について

私は中学1年で世界4大文明を学びました。いずれも文明に大きな影響を与えていたのは大河であると教えていただきました。エジプト文明ではナイル川、インダス文明ではインダス川、メソポタミア文明ではチグリス・ユーフラテス川、中国文明では黄河や長江、こうした河川がもたらす恵みが人々の生活を向上させ、文字や時刻など新たな発見を生み出す原動力となってきました。

日本から最も近い距離にある中国文明では、今から3千年以上前に甲骨文字を発達させ、私たちが普段から使用している漢字にも大きな影響を与えました。

利根川には、4大文明をもたらした大河と同じような東国文明が起こっていたのではないかと、と思わせるような古代の人々が残してくれた数多くの遺物からも、推理してみたいと思います。

## 2. 文明と文化について（言葉の違い）

### ①文明

辞書：知識や技術が発達して、高い文化を持っている状態のこと

説明：現在における「文明」という言葉の概念としては、精神的な発達よりも技術・機械の発達や、社会制度の整備などに対するニュアンスの違いが強く、経済的・物質的  
文化の表現に用いることが多い。

文明という言葉は特定の地域や年代に縛られず、普遍的に使用されている。

英語：人間の発達した社会状態を指す Civilization。

例文：「文明」の利器を活用し人類の生活はどんどん便利になっていく。

### ②文化

辞書：世の中が開けて、暮らしが豊かになること

説明：文化という言葉は精神的な部分に重きを置いているので、機械的な発達よりも、  
学問や学習、人々の交流に関する事柄に用いることが多い。

文化という言葉は特定の地域、年代、歴史を表す際に用いることが多い。

英語：Culture

例文：欧米「文化」が入ってきてから日本人は肉を好むようになった。

### ③まとめ

技術的な事柄は文明、精神的な事柄は文化と定義づけられるようです。

### 3. 私の住む前橋市内における利根川の変遷について

現在、前橋市内は北から群馬県庁の西を流れ、南下してから東に大きく流れを変えている利根川。しかし、資料が残る1539年の洪水があるまでは、現在の広瀬川を前橋・駒形・境へと流れていたようです。「まえばしのうつりかわり」によれば、「すむ人として少なく、今のよう到大正用水とか天狗岩用水などに引かれず、自然のままの水の流れは、ある時は北よりの桃ノ木川あたりを流れ、ある時は広瀬川を中心として流れ、ある時は馬場川筋を流れました。時には深い淵となり、時には早い浅瀬になり、時には幾筋もの川になり、広い河原も作りました。人々は連雀町の坂からかまくら坂あたりまでを、一里の渡しと呼んで、舟で行き来したとも言われています」と書かれていました。

一里とは3.92727273 km、約4 kmになります。実際に東和銀行本店北側から鎌倉坂まで計測してみると約4 km、このように広い川幅があったのかと驚きました。祖父母の自宅（城東町）の庭には川石がゴロゴロしていましたが、これらはきっと河原であった証拠になります。



(馬場川通り)

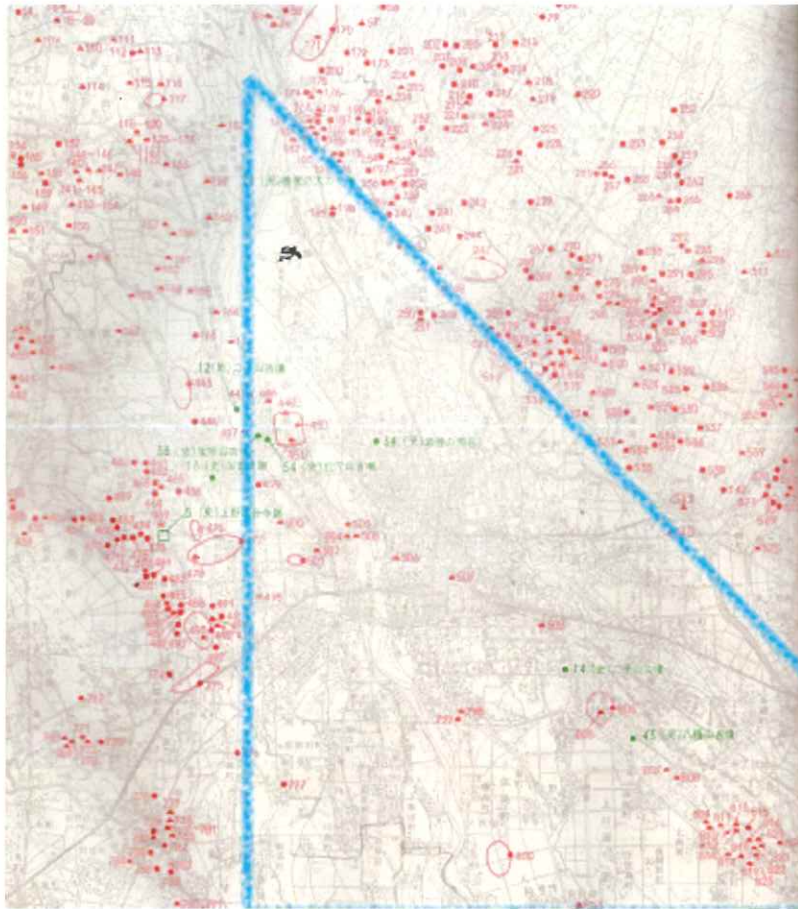


(本町 群銀前橋支店北、東和銀行本店北)



(広瀬川、桃ノ木川)

また、文化庁の発行する全国遺跡地図群馬県（下記地図）によれば、水色で囲んだ内側には遺跡がほとんど存在していないことから、利根川の川底であったのではないかと、もしかしたら度重なる氾濫により遺跡自体も流されてしまい現存していない可能性もありますが、古代の人々は度重なる川の氾濫に慣れていて、あらかじめ高台へ住居を構えていたのかもしれない。



(高台に集中する遺跡)

#### 4. 利根川沿いの東国文化を代表する遺跡群について

ここでは、私がこれまで研究した遺跡や古墳の中で、利根川に関連した東国文化を代表する遺跡を紹介します。

##### (1) 矢瀬遺跡

場所：月夜野町上毛高原駅より歩いて約20分の利根川沿い

年代：縄文時代後期から晩期の遺跡

概要：

日本で最初の出土例となった四隅袖付炉を持つ住居を含む22か所の竪穴住居跡群からなる居住域、敷石・立石列や水場・水路を持つ共同作業場、110基近い配石墓群が集まる墓域、直径50センチメートル前後の巨木を半切して並べた巨木柱列（関東地方では初の出土例）とその内側に3つの立石からなる石組の祭壇をしつらえた祭し場。

所感：

すぐそばを利根川が流れていることから、捕りたい時に魚を捕れる位置にあり、氾濫などで家が流されることも多かったのではないかと考えられます。



(3年前 矢瀬遺跡にて)

## (2) 三原田遺跡

場所：渋川市の三原田団地内

年代：縄文時代中期から後半の遺跡

概要：直径130mの環状の範囲に住居跡341（直径4mほどの円形竪穴を掘り、中央に石組みの炉を切った家）、墓・貯蔵穴等は1400以上からなる大規模集落

所感：

・村同士の対立という面では、遺跡自体が斜面にあるということから攻め難く、遠くまで見張りが行き届く利点があったのではないかと思います。

・稲作文化が定着した弥生時代以降は、斜面を利用した稲作を行うなど、何代にもわたり定住することができたと思います。



(2年前 三原田遺跡にて)

## (3) 中溝・深町遺跡

場所：太田市新田小金井町の小金井史跡公園

年代：4世紀末～5世紀初めの遺跡

概要：

北部から掘立柱建物跡と2基の石敷井戸が発見され、水の祭りを行った場所ではないかと考えられている。また、遺跡の北側には豪族居館溝跡（唐桶田遺跡）、南西側には庶民の集落（一本杉Ⅱ遺跡）が見つかり、村の存在が明らかになる。

所感：

井戸を掘り当てるためにはお金と労力が必要と思われます。利根川の地下水脈から井戸を掘り当てた豪族が当地に水神をまつり、神主として、または水源管理をしていた館跡ではないかと想像しました。



(8月14日 中溝・深町遺跡にて)

#### (4) 前橋天神山古墳

場所：前橋市広瀬町の朝倉・広瀬古墳群のほぼ中央に位置する前方後円墳（後円部の一部だけが現存）

年代：4世紀頃（古墳時代前期）

概要：全長129m、副葬品には銅鏡5枚（うち2枚は西日本で出土する三角縁神獸鏡）や鉄製の武器や農具、墳丘の頂上からは埴輪以前の祭りで使用される壺形土器が出土した。

所感：

- ・出土した三角縁神獸鏡は東国では珍しい出土品であることから、大和政権との深い繋がりがあったと想像しました。

- ・旧利根川（現広瀬川）よりも高台に築かれていました。



(8月14日 前橋天神山古墳にて)

#### (5) 太田天神山古墳

場所：太田市内ヶ島町にある前方後円墳

年代：5世紀後半（古墳時代中期）

概要：全長210m、二重の周堀を含めると長さ355m・幅285m、墳丘全体を葺石で覆う

所感：

- ・東日本第1位の大きさ、同時期の古墳比較では全国第2位、長持形石棺の使用から、大和

政権との関係の深い、相当位の高い人物が眠っていると想像しました。



(8月14日 太田天神山古墳にて)

#### (6) 山王金冠塚古墳

場所：前橋市山王町にある朝倉・広瀬古墳群の南部に位置する前方後円墳

年代：6世紀後半（古墳時代後期）

概要：全長 53m、出土遺物に円筒埴輪や人物などの埴輪、武具、馬具、特に金銅製冠（精巧な打ち出し技法の立ち飾り 5 個、頭にかぶる部分の輪に鋸で留めて形作る）は有名で、韓国慶州の古墳出土の冠と良く似ている。

所感：

- ・冠は王の証だけではなく、栄誉の称号として与えられたことも考えられ、副葬品として馬具が出土していることから、例えば馬乗りNo.1、馬作りNo.1 など受賞し、副賞として与えられたものではないかと想像しました。
- ・前橋天神山古墳同様、旧利根川（現広瀬川）よりも高台に築かれていました。



(8月14日 山王金冠塚古墳にて)

#### 5. 東国文化は利根川と共にあったのか？

「強大な毛野王国（東国の古墳文化）」の 21 ページでは、「特に大古墳が集中している状況から、東国の中でも独立国としての、言性格うなれば毛野国としての地域・政権の成立を

考えても良いのかもしれませんが」と述べていました。

私は、3及び4の調査結果から、時代ごとに東国文化と利根川の繋がりを推理してみました。

- ・旧石器時代や縄文時代の上野国(群馬県)は、自然豊かな上毛三山において木の実や動物、利根川において魚を捕って食料にし、やがて高台に定住し、牧畜も行うようになった。
- ・弥生時代の上野国は、氾濫を繰り返す利根川がもたらした肥沃な大地で稲作が行われるようになった。その結果、貧富の差が顕著になり、リーダーシップを取る者が現れ、より多くの富を持った者が豪族の地位を得て、その豪族の中から王が現れるなどした。
- ・古墳時代の上野国は、豪族と豪族の頂点に立つ王が、大和政権の支配下に入り、馬の生産地となった。
- ・氾濫を繰り返す利根川から高台へ取水する仕組みを整え、飲み水や農業用水など水利を押しさえるようになった王がこの地を治めるようになり、王が亡くなった時には、祀るための墓である古墳が作られていった。

このようにして、大和政権の影響を受けながら、利根川のもたらす恵みを利用した生活が営まれていました。まさに同政権の技術が東国に伝わって暮らしぶりが豊かになった状態であり、これこそ『東国文化』であると結論付けました。

#### 5. 現代における東国文化について (まとめ)

上毛かるたには「力合わせる 200 万」とありますが、現在は 191 万人 (全国第 18 位) の人が群馬県に住んでいます。これらの多くの人々は県内の産業に関わっていますが、群馬県は全国でも指折りの工業地帯となっています。

Wikipedia によれば、北関東工業地域 (きたかんとこうぎょうちいき) とは、埼玉県北部・群馬県・栃木県・茨城県 (太平洋沿岸地域を除く) の工業地域を言い、大規模装置産業から高度組立型産業への移行が内陸部への立地を可能にした工業地域であり、この中心となっているのが群馬県になります。

また、農畜産物も利根川の水を利用して育ち、日本全国へ出荷されています。もちろん、私たちの飲み水も谷川を源流とする利根川から取水されているのです。

このように、利根川は私たちの生活と密接な関係にあるのです。

私たちはこれからも利根川を大切にしながら、現代における東国文化の更なる発展を支えていきます。



参考文献.

- ・ 全国遺跡地図群馬県
- ・ 違いはねっと (<https://xn--n8j9do164a.net/archives/2960.html>)
- ・ 東国文化副読本
- ・ 強大な毛野王国 (東国の古墳文化)
- ・ 前橋市史
- ・ 前橋の歴史
- ・ Wikipedia



(安政5年(1858年)の万代橋の絵について、私が習うデジタルアートで作成)